

令和4年度 第2回浦安市郷土博物館協議会議事録（議事要旨）

- 1 開催日時 令和5年3月29日（水） 14時～16時
- 2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室
- 3 出席者
（委員）明保治男委員長、舘里枝副委員長、大村洋子委員、鈴木孝一委員、吉野忍委員、男全寛子委員 欠席1名
（事務局）生涯学習部次長、郷土博物館館長、郷土博物館副主幹、郷土博物館職員4名
（傍聴人）なし

4 議 事

1. 開会

- (1) 委員長あいさつ
- (2) 教育委員会あいさつ

2. 議 事

- 報告事項 (1) 令和4年度 郷土博物館事業報告について
(2) 浦安市郷土博物館の設置及び管理に関する条例の一部改正について
- 協議事項 (1) 令和5年度 郷土博物館事業実施計画（案）について
その他

5 会議経過

会議に先立ち、明保委員長があいさつを行い、その後、森田生涯学習部次長があいさつを行った。

議 事 報告事項

(1) 令和4年度 郷土博物館事業報告について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 博物館の活動は工夫があって素晴らしい。特に海苔養殖について、子どもたちに、浦安にはこういう産業があったことを伝えてほしい。
博物館の利用団体のうち、市外からの団体はどのような団体が来るのか。
- (事務局) 市外からの団体については、市民サークルや、放課後デイサービスなどの福祉施設が多い。市内だと、そのほか保育園なども多い。
- (委員) 入館者数について、近隣市と比べて多いと思うが、一日の平均入館者数について、近隣市と比較できるとよい。
- (事務局) コロナ禍前、近隣市の同規模館では年間の入館者数が3万人から4万人のところが多かった。当館は、博学連携事業で多くの来館があることや、体験型の博物館ということもあり、コロナ禍前の年間入館者数は10万人前後と、他の市町村より多くの方に来ていただけていると思う。次回会議で比較できる資料を作成し、報告する。

- (委 員) 夏休みの相談会については、今年度から実施しているのか。
- (事務局) 以前から実施している。
- (委 員) ジュニア学芸員は創設何年目か。コロナ禍になってから始まったのか。
- (事務局) 令和3年度より開始して、2年目になる。コロナ禍を受け、ボランティアが急減したことから、将来にわたって浦安で活躍できる子ども世代のボランティアを育成したいという考えがあり企画した。
- (委 員) この博物館の良いところは、展示だけでなく、人が伝え、動いているところである。博物館の肝である「もやいの会」の後継者不足をずっと懸念していたが、ジュニア学芸員は新たな芽吹きであり、すばらしいと思う。子どもたちが動いていくことで、いのちのある博物館になると思う。
- (委 員) 今年度は囃子保存会が出演するイベントも多く実施でき、たくさんの来場者があり良かった。「もやいの会」に、新しい人は入っているのか。
- (事務局) 「もやいの会」については、人数が減っている部分もあるが、新しく焼玉エンジンの整備ボランティアが加入したり、元舟大工保存会のメンバーが「もやいの会」の会員として、船の修繕や、模型作り教室などに携わっている。ジュニア学芸員事業を通した子どもボランティアの育成と並行して、壮年層のボランティアも育成していきたい。5年度は、リニューアルした展示室を活用し、展示解説ボランティア育成講座も予定している。
- (委 員) 「もやいの会」会員募集の広報等は行っているのか。
- (事務局) 行っていない。希望があれば、何ができるか相談して、入会していただいている。コロナ禍で、ボランティアにも来館の自粛をお願いした時期もあったので、今後こういった形で展開していくか検討していく。
- (委 員) ジュニア学芸員応用講座は、どういった過程を経たら参加できるのか。また、高校・大学の活用は小中学校に比べると少ないが、どのような活動をしているのか。大学生は教員免許をとる人もいるので、博学連携事業に関わることができるかと、大学生との交流が深まってよいのではないかと。
- (事務局) 応用講座は、通常ジュニア学芸員の認定を受けたあとに受けることができる。4名の学芸員が年に2名ずつ開催していくことを目標としており、4年度は展示体験、ベカ舟の操船体験を実施した。今後は子どもたちの希望を聞きながら実施し、ベカ舟は人気が高いため、来年度も継続したい。高校生は、校外学習のグループ行動での来館や、遠方の高校の場合、修学旅行での来館もある。スケジュールの都合で実施はできなかったが、4年度は、浦安南高校との連携事業も企画していた。大学生は、千葉大学の工学部など、建築分野を学んでいる学生が、旧大塚家住宅の実測を行うなどしている。また、明海大学との提携で、100時間のボランティア活動を行う学生ボランティアの受け入れを行っており、その中で学生が博学連携事業に参加し、幼稚園生や小学生と交流している。
- (委員長) ホームページでジュニア学芸員の活動の様子を見たが、学芸員の仕事についても、博物館法に位置付けられているといった指導を受けていて、しっかりした学びをしていると感心した。

(2) 浦安市郷土博物館の設置及び管理に関する条例の一部改正について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 入場料に関して、基本は無料で、特別展に関して有料にするというのはありだと思ふ。収入は、特別展の開催に使うのか、館の運営に回せるのか。
- (事務局) 入場料の徴収根拠となるのは、借用した資料の保険料や輸送費、警備費となるが、実際は市の歳入に入ることになる。
- (委員) 収入を次の展示の費用として充てることはできるのか。また、入場料は、展示にかかる費用を踏まえて価格を決めるのか。
- (事務局) 会計年度での市の歳入になるので、次回の展示の費用にすることはできない。価格は、展示の予算に対して、その一部を補完できるよう、条例の額を超えない範囲で決定していく。
- (委員長) 基本は無料で行うが、条例改正によって、入場料の徴収もできるようになるという理解でよろしいか。
- (事務局) その理解でよい。

協議事項

(1) 令和5年度 郷土博物館事業実施計画(案)について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 学芸員講座の定員は何名か。どれくらい申し込みが来ているか。
- (事務局) 定員は12名で、現在8名申し込みがきている。
- (委員) 公民館との共催事業について、博物館だけで完結するより、活動を広げていけるのはよいと思ふ。公民館だけでなく、公民館で活動しているサークル等とも協力し博物館に来てもらうなどもして、続けていってほしい。
- (事務局) 現状は、博物館の事業を市内の各地域に広げていくことを目的に、博物館主体で行っている。今後、公民館と連携し、公民館の事業のうち、博物館でできるものはないか、公民館の力を借りられるところがないか、探っていきたい。「もやいの会」の人数も減少している中、市民団体やサークル等にも協力をいただきながら、活動を広げていきたい。
- (委員) 「ふるさと浦安作品展」は小中学生が対象だが、高校生の参加が出来るかよいのではないか。博学連携事業に関しては、校内での授業とは違い、遠足のような一行事として、楽しんで学べる場であると思ふので、これからも続けてほしい。
- (事務局) 高校は、義務教育を修了した場でどこまで声をかけられるか、周知が難しい部分がある。浦安に関する絵やレポートなど、高校生から先は一般枠で募集することは可能かと思ふので、検討を重ね何かできるとよい。博学連携事業の中で、子どもが博物館で出会ったボランティアやスタッフなどの大人にまた会いに来たり、博物館の外でも交流も生まれているようなので、人と人とのふれあいを大切にして、体を使った交流を行っていきたい。

閉会

以上をもって、令和4年度 第2回浦安市郷土博物館協議会は、閉会した。
閉会后、リニューアルしたテーマ展示室の視察を行った。